

2018(平成30)年度 法学既修者入学試験問題(9月試験)

民法

(120分, 総点150点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

注意

1. 問題冊子は, 表紙を含めて4ページで, 問題は3問ある。
2. 解答用紙は3枚配布する。解答は解答用紙に記入し, 解答の末尾には, 「以上」と明記すること。また, 用紙が不足した場合には, 追加の用紙を配布するので, 挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として, 白紙を1枚配布する。ただし, 下書き用紙の提出は認めないので, 必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号, 氏名記入は, 監督者の指示によること。また, 「管理番号」欄は, 大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には, 応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお, 試験中の発病等やむを得ない場合には, 挙手により監督者に知らせ, その指示に従うこと。
7. 試験終了後は, 監督者の指示があるまで, 各自の席で待機すること。
8. 問題冊子及び下書き用紙は, 各自で持ち帰ること。

第1問

パンの製造販売を業としているA社の原料仕入部門の主任Bは、仕入れた原料を横流しして利益を図る目的で、パンの原料である小麦粉5トンをA社名義でC社から購入した。C社側でこの売買契約に携わった販売部門の主任Dは、あらかじめBからそのような意図を打ち明けられ、横流しして得られた利益の一部を分配してもらう約束でこの売買に応じたのであった。その後現実にこの小麦粉はBによってEに転売され、A社のもとにはこの小麦粉は存在していない。

- (1) C社はA社に対してこの売買代金の支払いを請求している。この請求が認められるか否かについて論じなさい。 (40点)

- (2) C社のA社に対する売買代金支払請求が認められないとした場合、EがC社からの小麦粉の返還請求に応じなくてもよいとされるためには、どのような法律構成が考えられるだろうか。 (20点)

第2問

(1) Aは、その所有建物（以下「本件建物」という。）をBに賃貸した。B夫婦とその家族は、本件建物に入居し、生活をしていた。ところが、半年が経ったころ、Bの妻Cの過失により本件建物が全焼してしまった。

Aは、本件建物返還債務の履行不能を理由に、Bに対して損害賠償請求をした。

Aのこの請求が認められるか否かを、Bからの反論を想定しながら検討しなさい。

(30点)

(2) Aは、大手の土木建設会社に勤務するサラリーマンであり、本件事故当時40歳であった。Aは、休日に夜道を歩行中、Yタクシー会社の運転手Bが運転するタクシーに跳ねられて重傷を負い、後に死亡するに至った。

Aの相続人Xが、Yに対してA死亡による損害の賠償請求をするに当たり、Aが定年(60歳)まで勤めた場合の逸失利益を、定期昇給を前提にして計算し、賠償請求をした。これに対して、Yは、Aの定期昇給は将来のことであって、現実性がないから、損害額算定の基礎として考慮すべきではないと争った。

X、Y相互の主張を検討し、いずれの当事者の主張が認められるかについて論じなさい。

(30点)

第3問

A男とB女は2年前に、お互いの親族、友人、職場の同僚などを招待して結婚披露宴を行い、同居生活を始めた。しかし、双方が一人っ子だったこともあり、お互いの氏を変えることに双方の両親が難色を示していたこともあり、婚姻届を出さないままであった。

1か月前に、Cが運転していた自動車の事故に巻き込まれ、Aが死亡した。事故の原因はCの居眠り運転であったことが後で判明した。

次の(1)と(2)に答えなさい。

(1) BはCに対して損害賠償や慰謝料の請求をしようと考えているが、この請求は認められるか。根拠を示して答えなさい。 (15点)

(2) Aの死後、BがAの子を妊娠していることが分かり、翌年Bは無事にDを出産した。Dの生物学的な父親はAであることが明らかである。この場合、Dの父親がAであることを法律上確定するためにはどのような手続が必要となるか。答えなさい。 (15点)